

## 第44回

## 発明大賞

## 受賞製品・技術のポイント

日本発明振興協会（東京都渋谷区、原昭邦会長、03・3464・6991）と日刊工業新聞社共催の「第44回（2018年度）発明大賞」に26件の発明が選ばれた。発明大賞は発明考案を通して産業の発展や国民生活の向上に寄与した資本金10億円以下の中堅・中小企業や個人、グループに贈られる。表彰式は13日に東京都港区の明治記念館で開く。



(50音順)

## 発明功労賞

■検体の検査方法、検体の検査装置及び検体の検査キット  
ト||協和医療器（専務・小野寺俊弥氏ほか1人）

食品製造現場での大腸菌・大腸菌群などを検出する検査方法と装置。今までは自動判定が困難であった公定法である「ダーラム管」による検査で自動判定・自動記録を実現した。ポリスチレン製ダーラム管の開発と近赤外線センサーを用いた自動検査装置の開発で、大腸菌・大腸菌群などが成長時に作る微量のガスでも迅速かつ確実に検出が可能。

検査は、デイスポタイプのあらかじめ液体培地の入ったダーラム管入り試験管に、検体液を入れ自動検出装置に差し込むだけ。自動で検査判定・記録・異常時の通知をする。

（協和医療器||東京都中央区、03・6228・7244）